

◆主郭地区における発掘調査の主な成果



① 主郭北西斜面の巨石です。この付近は、台形に張り出しており、主郭斜面の中で最も大きい石を使用していることから、櫓などの特殊な施設を有していた可能性があります。



② 主郭大手脇に設置された花崗岩巨石です。主郭の入口部分にあたることから、登城者への視覚効果を意識して配されたと考えられます。もともと1個の巨石だったものが、江戸時代初期に2つに割れたことが判明しています。



③ 石垣I。主郭北西斜面で推定される石垣Iの高度は、2.5～3.8mです。



④ 石垣Iと石垣II。石垣IIは一番下の1列しか残っていませんが、その背後の裏込石により、高さは1.2～1.5mであったことが推測できます。



⑤ 石垣III。石垣I・IIとは異なり、石垣IIIは腰巻石垣という、土塁の下部に石垣を築いた構造となっており、高さは石垣1mと土塁1mを足した2mであったと考えられます。



⑥ 石垣の背後の様子



⑦ 墨書石垣石材 (展示室1階東側に展示しています)



⑧ 石垣IIの前に設置された石桁状の遺構。排水溝の役割を担っていたと考えられます。



⑨ 搦手道に沿って屈曲する石垣II



⑩ 搦手虎口の石垣I前に築かれた礎石と側溝



⑪ 岩盤を加工し入隅を形成し、その上に石垣を据えています。



⑫ 南東斜面で隅角石を確認しました。後に一般的となる「算木積」をしていないことから、最も古い段階の石垣構築技法を知る手がかりとなりました。

◆参考文献

- 「創立十周年記念誌」
編集：長谷川 安 発行：小牧市立小牧中学校 1957年
「小牧市史」
編集：小牧市史編集委員会 発行：小牧市 1977年
「小牧山」発行：小牧市 1982年
「中国の古典4 孟子」
訳者：大島 晃 発行：株式会社 学習研究社 1983年

- 「小牧叢書 17 続 小牧山城」
編集：小牧市文化財資料研究委員会 発行：小牧市教育委員会 2000年
「小牧叢書 20 太平洋戦争と小牧」
編集：小牧市文化財資料研究委員会 発行：小牧市教育委員会 2006年

◆参考 Web サイト

- 「文化財指定等の件数」
<http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/shokai/shitei.html>
- 「史跡名勝天然記念物」
http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/shokai/pdf/toroku_201708_04.pdf
- 「文化財ナビ愛知」
<http://www.pref.aichi.jp/kyoiku/bunka/bunkazainavi/syubetsu/siseki.html>

小牧山国史跡指定 90 周年記念
平成 29 年度小牧市歴史館企画展
「小牧山の歴史 ～昭和 平成 そして未来へ～」
— 編 集 —

- ◆小牧市教育委員会生涯学習課文化財係
〒485-8650 愛知県小牧市堀の内三丁目1番地
TEL (0568) 76-1189
- ◆小牧市施設活用協会
〒485-0041 愛知県小牧市小牧二丁目107番地
TEL (0568) 71-9711

小牧山国史跡指定90周年記念
平成29年度小牧市歴史館企画展

小牧山の歴史

～昭和 平成 そして未来へ～

会 期 平成29年9月22日(金)から平成29年11月15日(水)
会 場 小牧市歴史館1階展示室西側

はじめに

小牧山は、昭和2年(1927)に国の史跡に指定されてから今年で90年を迎えます。これを記念して、「小牧山の歴史 ～昭和 平成 そして未来へ～」と題した企画展を開催します。

小牧山は、小牧市の中心市街地の西側に位置し、標高85.9m、総面積約21haの独立した丘陵です。周囲に遮るものがないため山頂からは、鈴鹿、御岳などの峰々や濃尾平野を一望することができます。豊かな自然に恵まれ、人々の憩いの場となっている小牧山には、これまでに様々な歴史がありました。

小牧山が城郭として日本史上に初めて登場するのは、永禄6年(1563)のことです。織田信長が自らの手で初めて小牧山に城を築き、同時に城の南側に城下町を整備し、清須から居城を移しました。4年後の永禄10年(1567)美濃の斎藤家の居城である稲葉山城を攻略した信長は、地名を岐阜と改め居城を移しました。これにより、小牧山城は廃城となり、城下町も一部を残して衰えました。

信長が岐阜へ移ってから17年後の天正12年(1584)小牧・長久手の合戦が起こると、羽柴(豊臣)秀吉に対するため、織田信雄・徳川家康連合軍は小牧山城を大改修し、陣城としました。小牧山の麓の周囲を取り巻く土塁や堀、虎口などはこの時に改修されたものです。この合戦による小牧付近での大きな戦いはなく、また、年内に和解したため、小牧山城は再び廃城となります。

江戸時代になると小牧山は藩領となり、神君(しんくん)家康公ゆかりの地として一般の入山が禁止されるなど、尾張藩から手厚い保護を受けたため、山中の遺構は良好な状態で残りました。

明治2年(1869)版籍奉還により小牧山は政府の所有となり、「小牧公園」として一般に公開されましたが、明治22年(1889)には尾張徳川家の所有となり、小牧山の一般公開を停止しました。

昭和2年(1927)小牧山は国の史跡に指定されました。これを機に、昭和5年(1930)に尾張徳川家から小牧町(現・小牧市)へ寄贈され再び一般公開され、現在に至っています。

本企画展では、小牧山が国の史跡に指定された当時についてや戦中・戦後の利用について、さらに近年の史跡整備に伴う発掘調査で明らかになりつつある小牧山城の姿についてパネルで紹介いたします。

主催 小牧市 小牧市教育委員会 小牧市施設活用協会



国指定史跡小牧山 昭和2年(1927)10月26日指定

◆国の指定史跡とは

国の指定史跡とは、日本の歴史を語る上で重要な遺跡であると国が特に認めた遺跡にのみ指定がされるもので、文化財保護法により、国(文化庁)の厳密な指導・監督のもとで史跡の管理や保護を受けます。つまり、指定されると国(文化庁)の許可なく、その土地に何か構造物を建てるなどの変更を加えることができなくなります。

◆国の指定史跡はどのくらいあるのか

国の史跡名勝天然記念物のうち史跡指定を受けている件数は、1,723件(平成29年8月1日現在)で、そのうち39件は愛知県にあります。小牧山は、県内でも大正11年(1921)に指定を受けた田原市の百々陶器窯跡、豊川市の三河国分寺跡、豊川市の三河国分尼寺跡に次いで指定を受けた非常に歴史ある貴重な史跡で、同年には、安城市の二子古墳、姫小川古墳なども指定を受けています。

◆なぜ小牧山が指定されたのか

小牧山の指定調書に記載されている「説明」によると、永禄6年(1563)に織田信長が小牧山に城を築城し、天正12年(1584)に小牧・長久手の合戦で織田信雄・徳川家康が本陣とした地であること、その後、尾張藩により厚く保護されたため、堀や土塁などの遺構が現在において良好に残っていることが指定の理由になっています。

昭和2年(1927)から戦中の小牧山利用

昭和2年(1927)11月18日、小牧山や岩崎山近辺で昭和天皇の統監の下、陸軍大演習が行われ、また、戦中には防空壕・兵隊道などが山中に造られました。その一部をご紹介します。

◆兵隊道

桜の馬場から東へ行くと山頂に向かってまっすぐにのびる、細くて急な登山道があります。この道は通称「兵隊道」とよばれ、太平洋戦争末期に本土空襲を受けるようになった時期に、警戒警報や空襲警報がでた際、兵隊が山頂の対空監視所に速く駆け上がるように造られました。

兵隊といっても、終戦近くの頃であったため、内地の防衛招集として集められた人は、戦地からけがや病気のために戻ってきた人やお年寄りばかりの在郷軍人で、十分な組織とはいえなかったそうです。

守山の師団から発令されると、それを聞いた在郷軍人が、我先にこの兵隊道を駆け上がり、手持ちの望遠鏡で敵機を監視し、その状況が無線で報告したそうです。



兵隊道
山頂まで一直線であるため最短で上がることができる。

戦後の小牧山利用

小牧山東麓に小牧中学校が創設され、高度経済成長期には青年の家や小牧市役所、小牧市歴史館が造られました。その一部をご紹介します。

◆小牧中学校

昭和22年(1947)4月1日に小牧町立小牧中学校が創設され、仮校舎で授業を開始しました。8月8日に小牧山で校舎建設地鎮祭が行われ、昭和23年(1948)から順次新校舎が完成しました。

昭和30年(1955)1月1日に小牧市が誕生し、それに伴い、学校名が小牧市立小牧中学校となりました。

昭和40年(1965)7月7日には防音鉄筋校舎が竣工し、飛行機の騒音による授業の中断が少なくなりました。

生徒の増加により、昭和49年(1974)小牧市立応時中学校を、昭和58(1983)小牧市立小牧西中学校を新設し、小牧中学校から校区を分割しました。

平成10年(1998)小牧山東麓にあった校舎は、小牧山の南(史跡外)へ移転しました。

◆昭和40年代までに小牧山につくられたもの



小牧山城の発掘調査の歴史と小牧山の未来

小牧山では、戦後まもなく東側山麓に小牧中学校が建設され、その後、青年の家、市役所などの公共施設が建設されました。しかしながら、昭和57年(1982)頃から史跡内に公共施設があることへの疑問の声があがり、昭和63年度(1988)以降に小牧山緑地整備事業として、小牧山北側について史跡にふさわしくないものの撤去と、その跡地の復元的整備を行うこととなりました。この整備を行うにあたり、基礎資料を得るために、昭和61年(1986)帯曲輪地区北部での調査を実施し、この調査を皮切りに、小牧山城の発掘調査は始まりました。小牧山緑地整備事業における発掘調査は、平成元年(1989)まで続き、土塁や堀、虎口といった天正期(※1)の遺構を中心に確認しました。

平成4年(1992)には、小牧市教育委員会が小牧中学校の移転の方針をたて、平成10年(1998)に史跡外へ移転することとなり、この移転に伴い、旧小牧中学校用地における調査を実施しました。調査により、永禄期(※2)の堀や井戸、土坑、天正期の土塁や堀などを確認しました。調査は平成14年度(2002)まで続き、その成果を元に整備を行い、平成15年度(2003)に史跡公園は完成、全面開放しました。

史跡整備に伴う事前調査として、平成16年度(2004)以降は、山頂付近(主郭地区)の調査を実施しています。平成16年度(2004)から平成19年度(2007)にかけて4次の試掘調査を行い、その結果を受け、さらに調査を行い解明していく必要がある部分について発掘調査を実施することとなりました。平成20年度(2008)に開始した発掘調査は、平成29年度(2017)で10次となります。調査では、主郭の周囲を囲むように三段の石垣が積まれている状況や、主郭に至る大手虎口、搦手虎口を確認、また、搦手虎口では門の可能性のある礎石や石組側溝を確認するなど、永禄期の小牧山城の姿が明らかになりつつあります。今後は調査の成果を元に整備を進めていきます。

現在、小牧山の歴史や自然などについて学ぶ場として、小牧山の南東麓に(仮称)史跡センターを建設する準備をすすめています。(仮称)史跡センターは、小牧山を紹介するガイダンス施設であり、館内の展示設備や資料を通じて小牧山について学ぶ場としてだけでなく、小牧山に関するさまざまな情報を発信する場として活用します。

※1 天正期…織田信雄・徳川家康連合軍が小牧・長久手の合戦で陣城とした時期。

※2 永禄期…永禄6年から10年に織田信長が居城とした時期。



(仮称)史跡センター完成予想図